令和８年度

長崎大学大学院総合生産科学研究科
博士前期課程　総合生産科学専攻

学生募集要項

一　般　入　試

【冬期募集】

令和７年４月

長崎大学大学院総合生産科学研究科

〒852-8521　長崎市文教町１番 14 号

TEL（095）819-2491（直通）

長崎大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻
アドミッションポリシー

教育理念・目標

総合生産科学研究科総合生産科学専攻では，地球温暖化やエネルギー・食糧・水資源の枯渇化等の地球と人間が相互に関連する諸問題に対して，工学・化学・水産学・環境科学・情報データ科学等の技術と英知を結集し，学問領域を超えて俯瞰的視野で取り組む人材を育成する。長崎大学が目標として掲げる「プラネタリーヘルス（地球の健康）の実現」に向けて，海洋科学技術，水環境技術推進，国土強靭化・減災と環境との共生，水産資源の活用等に関わる研究をIoTやデータサイエンスと共に推進し，持続可能な社会構築に貢献する。脱炭素社会の実現に向け，次世代エネルギー・資源や新機能性物質創製等の最先端科学技術を創出すると共に，グローバルな危機的環境課題を解決できる研究者・技術者・高度専門職業人を養成する。

総合生産科学研究科博士前期課程アドミッションポリシー

総合生産科学研究科では，入学者に以下の学力・能力，資質・素養を求めます。

(1) 工学，水産学，環境科学又は情報データ科学のいずれかにおいて高い基礎学力がある。

(2) 自然と共生する技術社会の発展に貢献する意思がある。

(3) 地球温暖化やエネルギー・食糧・水資源の枯渇化，健康・医療問題等の地球と人間が相互に関連する諸問題に対して関心があり，工学・化学・水産学・環境科学・情報データ科学の技術と英知を結集し，俯瞰的視野で諸問題の解決に取り組む意欲がある。

(4) 海洋科学技術，水環境技術，国土強靭化・減災と環境との共生，水産資源，機能物質創製，IoTやデータサイエンスに関わる研究を推進することで，持続可能な社会構築に貢献する意思がある。

選抜方法に関する別表（求める素質等の評価方法とその比重（特に大きい比重：◎　大きい比重：○））

入試区分＼求める資質等		高い基礎学力	意欲・積極性・分野（コース）の適性	グローバル展開力	プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力
一般入試 ・共生システム科学コース ・海洋未来科学コース	英語			◎	
	筆記試験(専門科目)	◎			
	面接※	○	◎		◎
	ペーパーインタビュー※	○	◎		
一般入試 ・水環境科学コース	英語			◎	
	小論文・口述試験	◎	○		○
	面接	○	◎		◎
推薦入試	成績証明書	◎		○	
	面接	○	◎	○	◎
外国人留学生入試 ・共生システム科学コース ・海洋未来科学コース	小論文 ・共生システム科学コース（水産生物資源分野） ・海洋未来科学コース（水産系）	◎			
	口述試験 ・上記分野、系以外	◎	○		○
	面接		◎	○	◎
外国人留学生入試 ・水環境科学コース	英語			◎	
	小論文・口述試験	◎	○		○
	面接	○	◎		◎
社会人入試	口述試験	◎	○	○	○
	面接	○	◎	○	◎

※受験する分野・系によって実施する科目が異なる

1. 募集人員

専　攻	コース（分野）		募集人員
総合生産科学専攻	共生システム科学コース（水産生物資源分野）		2 人
	共生システム科学コース（環境レジリエンス分野）	工学系	1 人
	海洋未来科学コース	水産系	1 人
	合　計		4 人

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で，「5. 出願手続」の別表に記載の外国語検定試験成績証明書等を提出できる者

(1) 大学を卒業した者及び令和 8 年 3 月までに卒業見込みの者

(2) 学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び令和 8 年 3 月までに学士の学位を授与される見込みの者

(3) 外国において，学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

(4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

(5) 我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和 8 年 3 月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者

(7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和 8 年 3 月までに修了見込みの者

(8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）

(9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により他の大学院に入学した者であって，本研究科において，大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの（「3. 出願資格審査」参照）

(10) 本研究科において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，令和 8 年 3 月 31 日までに 22 歳に達するもの（「3. 出願資格審査」参照）

(11) 前号までの規定にかかわらず，文部科学大臣の定めるところにより，大学に文部科学大臣の定める年数以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であって，本研究科において，本研究科の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの（「3. 出願資格審査」参照）

3. 出願資格審査

(1)出願資格(9)又は(10)による出願

①出願資格(9)又は(10)で出願する者については，事前に出願資格を審査する必要があるため，以下の書類を令和 7 年 10 月 20 日（月）までに，長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係へ提出すること。

提出書類	備考
卒業（見込）証明書	出身（所属）学校長が作成したもの（卒業証書の写しは不可）
成績証明書	出身（所属）学校長が作成したもの
出願資格審査申請書	本研究科所定の様式
入学願書	本研究科所定の様式
研究歴証明書	本研究科所定の様式に，機関の長が証明したもの
研究内容要旨	本研究科所定の様式
出願資格審査結果返送用封筒〔長形 3 号（12cm×23.5cm)〕	志願者の住所，氏名及び郵便番号を明記のうえ，410 円分の切手（速達）を貼付したもの

※本研究科所定の様式は，長崎大学大学院総合生産科学研究科ホームページからダウンロードすること。
「総合生産科学研究科ホームページ」→「入試情報」→「募集要項」
（アドレス：https://www.ist.nagasaki-u.ac.jp/graduate/boshuyoukou）

②出願資格の審査結果については，出願期間前までに本人宛に発送する。なお，出願資格有と認定された者は，「4. 出願期間」及び「5. 出願手続」により手続きを行うこと。

(2)出願資格(11)による出願

①出願資格(11)により出願する者は，事前に出願資格を審査する必要があるため，以下の書類を，令和 7 年 10 月 20 日（月）までに長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係へ提出すること。

提出書類	備考
成績証明書	出身（所属）学校長が作成したもの
出願資格審査申請書	本研究科所定の様式
入学願書	本研究科所定の様式
推薦書	本研究科所定の様式 出身（所属）大学（学部）の長，学科長，コース長又はこれに準ずる教員が作成し，厳封したもの
在学証明書	（長崎大学在学生は不要）
履修の手引き （授業内容一覧も含む）	（長崎大学在学生は不要）
出願資格審査結果返送用封筒〔長形 3 号（12cm×23.5cm)〕	志願者の住所，氏名及び郵便番号を明記のうえ，410 円分の切手（速達）を貼付したもの

※本研究科所定の様式は，長崎大学大学院総合生産科学研究科ホームページからダウンロードすること。
「総合生産科学研究科ホームページ」→「入試情報」→「募集要項」
（アドレス：https://www.ist.nagasaki-u.ac.jp/graduate/boshuyoukou）

②出願資格審査結果については，出願期間前までに本人宛に発送する。なお，出願資格有と認定された者は，「4. 出願期間」及び「5. 出願手続」により手続きを行うこと。

③注意事項

出願資格(11)により,本研究科博士前期課程に入学した者の学部学生としての学籍上の身分は退学となる。したがって，種々の国家試験等の資格試験の受験資格で，大学の学部を卒業していることを要件としているものについては，受験資格がないことになる。

本学大学院博士前期課程に 1 年以上在学し，必要な単位を修得した者は,「大学改革支援・学位授与機構」に学士の学位授与を申請することができる。

4. 出願期間

令和 7 年 11 月 10 日（月）から 11 月 14 日（金）17：00 まで

(1)郵送する場合は必ず書留速達とし，**11 月 14 日（金）17：00** までに必着のこと。

郵送先　　〒852－8521　長崎市文教町 1 番 14 号

長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係

(2)志願者が出願書類等を持参する場合は，9:00 から 17:00 まで受け付ける。

5. 出願手続

志願者は，以下の出願書類等を，所定の期日までに長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係へ提出すること。

出願に当たって，指導を希望する教員に事前に連絡を取り，受験や入学後の研究内容について十分相談し，内諾を得ておくこと。

※本研究科所定の様式は，長崎大学大学院総合生産科学研究科ホームページからダウンロードすること。「総合生産科学研究科ホームページ」→「入試情報」→「募集要項」
（アドレス：https://www.ist.nagasaki-u.ac.jp/graduate/boshuyoukou)

出願書類等	備考
入学願書 （本研究科所定の様式）	（出願資格審査時に提出した者は不要） ・志望するコース・分野・系に○を付け，指導を希望する教員名を必ず記入すること。 ・共生システム科学コース水産生物資源分野と海洋未来科学コース（水産系）志願者は，受験する専門科目の試験科目 2 科目を記入すること。(11 ページ参照) (出願時に選択していない専門科目を解答した場合，その科目は無効となる。)
写真票・受験票・検定料納付証明書貼付票 （本研究科所定の様式）	・志望するコース・分野・系を必ず記入すること。 ・共生システム科学コース水産生物資源分野・海洋未来科学コース(水産系)志願者は，受験する専門科目の試験科目を 2 科目記入すること。
卒業（修了）証明書/学位授与証明書または**卒業（修了）見込証明書** （最終学歴のもの）	出身（所属）学校長が作成したもの。卒業証書の写しは不可。 ※　長崎大学の在学生は証明書自動発行機で発行すること。卒業生は証明書発行サービスを利用すること。 ※　なお，出願資格（6）に該当する者で，当該証明書に学士の学位に相当する学位を授与されたことが記載されていない場合は，別途，学位授与証明書を提出すること。
成績証明書	出身（所属）学校長が作成したもの。 ※　長崎大学の在学生は証明書自動発行機で発行すること。卒業生は証明書発行サービスを利用すること。 ※　短期大学又は高等専門学校の専攻科修了見込者は,短期大学又は高等専門学校の成績証明書と専攻科の成績証明書を提出すること。
志望理由書 （本研究科所定の様式）	・共生システム科学コース水産生物資源分野及び海洋未来科学コース（水産系）志願者は，必要事項を記入し提出すること。

検定料（30,000 円）	**《 振込期間 》** 令和 7 年 11 月 4 日（火）から 11 月 14 日（金）まで **《 振込方法 》** E-支払いサイト（https://e-shiharai.net/）（英語版 https://e-shiharai.net/ecard/）にアクセスのうえ，①コンビニエンスストア ②ペイジー（金融機関ＡＴM決済）③ペイジー（ネットバンク決済）・ネットバンキング ④クレジットカード のいずれかで支払うこと。（振込時に別途必要な振込手数料は振込者の負担となる。振込手数料は支払方法で違うので申込画面で確認のこと） ※ E-支払いサービス（英語版）では，④クレジットカード払いのみ選択できる。 **《 支払い別の貼付書類について 》** E-支払サービスで選択した支払方法毎に，次の書類を検定料納付証明書貼付票に貼付すること。 ①コンビニエンスストア支払の場合　支払い後，コンビニエンスストアで受領した「取扱明細書（取扱明細書兼受領書）」の点線枠の「収納証明書」部分を切り取り貼付して提出 ②ペイジー（金融機関ＡＴM決済）支払の場合　支払後，出力される「ご利用明細票」を貼付して提出 ③ペイジー（ネットバンク決済）・ネットバンキング， ④クレジットカードの場合　支払後，E-支払いサイトにアクセスし，受付完了時に通知された【受付番号】と【生年月日】を入力し，「照会結果」を印刷し所定の様式に貼付して提出 ※　E-支払いサービスにおける手順等に関する質問は，同サービス「利用ガイド」や「よくある質問」を確認し，不明な点があればE-サービスサポートセンターへ問い合わせること。 ※　上記いずれの方法も利用できない場合は，財務部財務企画課資金管理班（電話：095-819-2060/email: sikin@ml.nagasaki-u.ac.jp）まで問い合わせること。 （注意）E-支払いサービスでは，支払い後のキャンセルはできない。クレジットカードで支払った場合は，申し込み完了と同時に支払いが完了する。 **《 出願に際しての留意事項 》** 検定料が振り込まれていない場合，支払いを証明する収納証明書やご利用明細票等が貼付または添えられていない場合は出願を受理しない。 既納の検定料は，次の場合を除き，いかなる理由があっても返還しない。 検定料を振り込んだが長崎大学に出願しなかった（出願書類を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合又は検定料を誤って二重に振り込んだ場合には，振り込んだ者の申し出により，当該検定料相当額は返還する。返還にかかる手数料は，原則，入学志願者本人の負担とする。 なお，返還の申し出は，出願期間の最終日から 14 日以内とする。 〔返還に関する問い合わせ先〕 長崎大学財務部財務企画課資金管理班（電話：095-819-2060） ※　日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要である。
外国語検定試験成績証明書等	試験日から過去 3 年以内に受験したものに限る。（英語で利用する外国語検定試験は【別表】参照） 成績証明書は，受験票を送付する際に同封して返却する。 ただし，出願時に成績証明書の提出が間に合わない場合または出願時に提出した成績証明書の他に新たに受験したテストの成績証明書が提出できる場合には，事前に大学院係へ申し出ること。

受験票返送用封筒 〔長形３号（12cm×23.5cm)〕		志願者の住所，氏名及び郵便番号を明記し，「受験票返送」と朱書きの上，410円分の切手（速達）を貼付したもの。
住所登録 **（合格通知等の送付に使用）**		「総合生産科学研究科ホームページ」→「入試情報」→「募集要項」のフォームから，入力すること。（書類の提出は不要） 入力受付期間：令和７年11月４日（火）から11月14日（金）17時まで
該当者のみ	**受験承諾書** （様式任意）	現在在職中の者（在職したまま修学を続ける予定の者） 所属長又は代表者が署名押印したものを提出すること。
	学位授与証明書	出願資格(2)の出願者で，学士の学位を授与された者 大学改革支援・学位授与機構が発行したものを提出すること。
	学位授与申請受理証明書	出願資格(2)の出願者で，大学改革支援・学位授与機構に学位申請中の者 大学改革支援・学位授与機構が発行したものを提出すること。
	学位授与申請予定証明書	出願資格(2)の出願者で，専攻科修了見込みの者 当該短期大学長又は高等専門学校長が発行したものを提出すること。
	在留資格を証明するもの（写） （外国人志願者）	在留カード又は旅券（入国査証（VISA）の確認ができる部分）の写しを提出すること。

注）改姓等がある場合は証明する書類を併せて提出すること。

【別表】

外国語検定試験の種類	備考
次のいずれかの外国語検定試験で,試験日から過去3年以内に受験したものに限る。	出願時に次のいずれかの成績証明書の原本(後日返却)もしくはデジタル公式認定証を印刷したものを提出。 なお,提出が間に合わない場合または出願時に提出した成績証明書の他に新たに受験したテストの成績証明書が提出できる場合には,事前に大学院係へ申し出ること。
①TOEFL iBT	①TOEFL iBT Test Taker Score Report
②TOEIC L&R 公開テスト	②TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
③TOEIC L&R IPテスト ※共生システム科学コース水産生物資源分野及び海洋未来科学コース（水産系）のみ	③TOEIC L&R IPテスト成績表
④IELTS	④IELTS Test Report Form

（注）外国語検定試験は公式スコア（TOEFL iBT(Home Edition を含む。)は Test Date スコアに限る。）を対象とし，TOEFL ITPは対象としない。

6. 出願に関する注意事項

(1)出願手続後の提出書類の内容変更は原則認めない。

(2)受理した出願書類は，返還しない。

(3)入学試験についての問い合わせは,メールもしくは郵便により行うこと。郵便で照会する場合は,返信先を明記し，所要の切手を貼った返信用封筒を必ず同封すること。なお，電話による問い合わせには応じない。（ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ ： seisan_daigakuin@ml.nagasaki-u.ac.jp）

7. 選抜方法

入学者の選抜は，学力検査（筆記試験，英語及び面接又はペーパーインタビュー）の成績及び出願書類の審査の結果を総合して行う。学力検査において志望するコース（分野・系）が課す試験科目を全て受験しなければ失格とする。

英語は，筆記試験を実施しない（試験日から過去 3 年以内に受験した【別表】に掲げる外国語検定試験のいずれかの成績を換算して利用する)。

(1)試験日時・試験科目〔**試験日：令和 7 年 12 月 17 日（水），12 月 26 日（金)**〕

コース・分野・系	試験日	試験時間	試験科目	備考
共生システム科学コース 水産生物資源分野 海洋未来科学コース(水産系)	12 月 26 日 （金）	9:50～ 11:30	専門科目 出願時に 2 科目選択	計算用具の 持ち込み不可
		13:30～	面接	
共生システム科学コース 環境レジリエンス分野 （工学系）	12 月 17 日 （水）	9:00～ 10:00	数学	数学以外 計算用具の 持ち込み可
		10:20～ 11:20	構造力学	
		11:40～ 12:40	水理学	
		13:40～ 14:40	地盤力学	
		15:00～ 16:00	都市計画学	
		16:20～ 16:50	ペーパーインタビュー	

※　共生システム科学コース（化学・物質科学分野・環境レジリエンス分野（工学系）において「持ち込み可」としている計算用具については，関数機能を持つ電卓に限る（電卓のプログラム機能については使用を禁止する)。

(2)各試験科目の出題範囲

①共生システム科学コース（水産生物資源分野），海洋未来科学コース（水産系）

専門科目　※教員一覧のページを参考に試験科目を選択すること。

教育研究分野	試験科目	出題範囲
海洋生産システム	航海計測器学	各種航法，測位システム，航海計画，航海計器
	漁業技術論●	漁具設計，漁獲性能，選択性，資源調査技術
	海洋生物計測論	魚類の回遊，バイオロギング，アクアバイオメカニクス，資源構造環境変動
	海洋流体力学	海洋における流動・波動，物質輸送，海洋環境
	藻類生理生態学	光合成，栄養塩，藻類の生態学
	船舶運用学	船の安定性，船の主要目，トリム計算
	音響資源計測学●	音響散乱特性，音響資源量調査，音響測器
	海洋動態学	海洋の物理学，数学（微分積分，線形代数）

海洋資源動態	魚類学	魚類学一般（生活史，器官，形態）
	海洋微生物学	海洋微生物の生理・生態学(多様性，他生物との相互作用，機能)
	海棲哺乳類学	海棲哺乳類の生物学（分類・生態・行動・社会）
	海洋生態学	底生生態学（ベントス，海洋環境，生活史特性，個体群，群集，生態系）
	浮遊生物学	浮遊生物学
	進化生態学	魚類・頭足類をはじめとする水棲動物の生態の進化
	水産増殖学	種苗生産，種苗放流，養殖，生物餌料，魚類栄養
	化学海洋学	微量金属元素，海洋物質循環
	魚類行動学	行動計測技術，行動決定要因，摂餌・逃避行動
海洋生物機能	生物物理化学	細胞の構造と機能，生体高分子の分離と分析法
	生物化学	生体分子の構造と機能及びその代謝
	藻類増殖学	藻類の系統，光合成
	水族病理学	ウイルス病，細菌病，寄生虫病，環境性疾病，栄養性疾病，生体防御
	魚類環境生理学	海洋温暖化による繁殖生理影響・環境と性決定
	水族生殖生理学	配偶子形成・ホルモンによる性の統御・人為催熟技術
	生物環境学	無脊椎動物幼生の変態機構，ケミカルシグナル，汚損生物，生態系構成
	水族遺伝育種学	発生・遺伝・分子育種・防疫
	栄養機能生理学	シグナル伝達，機能性分子，嗜好性，生活習慣病
	天然物化学	天然有機化合物の分離・精製法，有機化合物の構造決定法・合成法
海洋生体物質	食品衛生学	食中毒，自然毒，食品添加物，化学分析，微生物性食中毒，衛生管理
	微生物学	微生物の構造・生理・生態・ゲノム
	食品栄養学	栄養素，消化吸収，エネルギー代謝，栄養所要量，鮮度
	水産利用学	水産加工食品，水産物の保蔵，食品分析，食物アレルギー
	水産食品機能学	生体調節因子，栄養機能，栄養素・非栄養素

●印の科目は同時に選択することはできない。

③共生システム科学コース（環境レジリエンス分野）

系	試験科目	出題範囲
工学系	数学	1 変数及び多変数関数の微積分，線形代数，複素関数論，フーリエ解析，ベクトル解析，常微分方程式，偏微分方程式，確率
	構造力学	静定・不静定構造物（はり，トラス）の反力・断面力・たわみ・影響線，長柱の座屈，はり・短柱の応力
	水理学	流体静力学，エネルギー保存則，運動量保存則，管路・開水路の流れ
	地盤力学	土の基本的性質，土中の水理，圧密，せん断強さ，土圧，斜面安定
	都市計画学	都市計画，交通計画，計画学数理

(3)学力検査等の配点

コース・分野	筆記試験 (専門科目)	英語	面接または ペーパー インタビュー	配点合計
共生システム科学コース水産生物資源分野 海洋未来科学コース（水産系）	200	180	20	400
共生システム科学コース環境レジリエンス分野 （工学系）	250	50	100	400

※英語は，試験日から過去 3 年以内に受験した【別表】(9 ページ参照）に掲げる外国語検定試験のいずれかの成績を換算して利用する。換算後の得点は，英語の配点を上限とする。

(4)合否判定基準

①共生システム科学コース

分野・系ごとに，総得点の高い順に合格者を決定する。ただし，面接試験の結果が著しく低い場合は，不合格とすることがある。

②海洋未来科学コース

総得点の高い順に合格者を決定する。ただし，面接試験の結果が著しく低い場合は，不合格とすることがある。

【面接の評価方法】

コース（分野・系）ごとに複数の面接員による個人面接形式で行い，出願書類を参考にして，志望動機，勉学意欲，分野（コース）の適性，一般知識及び社会性を総合的に評価する。

なお，コース（分野・系）によっては，面接に代わるペーパーインタビューを行い，志望動機，勉学意欲，分野（コース）の適性，一般知識及び社会性を総合的に評価する。

8. 試験場

長崎大学工学部・水産学部

〒852-8521　長崎市文教町 1 番 14 号

9. 受験上の注意事項

(1)　試験前日の午後，工学部 1 号館ピロティー及び水産学部正面玄関に試験当日の集合場所を掲示するので，試験室（集合場所）を確認すること。（ただし，入室はできない。）

(2)　受験者は，本研究科から交付した受験票を試験当日必ず携帯すること。

(3)　試験当日，所定の試験室（集合場所）は第一科目の試験開始時刻 40 分前に解錠する。志願者は，第一科目の試験時刻 30 分前までに入室すること。

(4)　筆記試験の各試験開始後 30 分以内の遅刻者は受験を認めるが，試験時間の延長はしない。面接試験の集合時刻に遅刻した者は受験を認めない。ペーパーインタビューの試験開始時刻に遅刻した者は受験を認めない。

(5)　携帯電話等は，試験室に入る前に電源を切っておくこと。

(6)　気象状況などを考慮して十分にゆとりをもった日程で試験に臨むこと。試験当日に台風等の自然災害が発生した場合は，試験日を延期することがある。

(7)　原則として追試験は実施しない。また，不測の事態が生じた場合，再試験を実施することがある。

10. 不正行為

① 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は，その場で受験の中止と退室を指示され，それ以後の受験はできなくなります。また，受験した試験の全ての科目の成績を無効とします。

ア 入学願書，受験票，解答用紙へ故意に虚偽の登録や記入（出願時に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の氏名・受験番号を記入するなど。）をすること。
イ カンニング（試験の科目に関係するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること，教科書，参考書，辞書等の書籍類の内容を見ること，他の受験者の答案等を見ること，他の人から答えを教わることなど。）をすること。
ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
エ 配付された問題冊子を，その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。
オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
カ 解答開始の指示の前に，問題冊子を開いたり解答を始めること。
キ 試験時間中に，直線定規以外の定規，コンパス，電卓（持ち込みが許可されている場合を除く。），そろばん，グラフ用紙等の補助具を使用すること。
ク 試験時間中に，携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末（スマートウォッチやスマートグラス等。），タブレット端末，電子辞書，IC レコーダー，イヤホン，音楽プレーヤー等の電子機器類を使用すること。
※ イヤホンについては，耳に装着していれば使用しているものとみなす。（試験時間中，病気・負傷や障害等により補聴器等を使用したい場合は，受験上の配慮申請が必要である。）
ケ 試験終了の指示に従わず，鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

② 上記①以外にも，次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず，不正行為と認定された場合の取扱いは，①と同様です。

ア 試験時間中に，直線定規以外の定規，コンパス，電卓（持ち込みが許可されている場合を除く。），そろばん，グラフ用紙等の補助具や携帯電話，スマートフォン，ウェアラブル端末，タブレット端末，電子辞書，IC レコーダー，イヤホン，音楽プレーヤー等の電子機器類，教科書，参考書，辞書等の書籍類をかばん等にしまわず，身に付けていたり手に持っていること。
イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど，試験の進行に影響を与えること。
ウ 試験に関することについて，自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申出をすること。
エ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
オ 試験場において監督者等の指示に従わないこと。
カ その他，試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

11. 合格者発表

令和 8 年 1 月 28 日（水） 10:00

※長崎大学大学院総合生産科学研究科ホームページに合格者を掲載するとともに，合格者に対し合格通知書を発送する。

「総合生産科学研究科ホームページ」→「入試情報」→「合格発表」

（アドレス：https://www.ist.nagasaki-u.ac.jp/graduate/goukaku）

※電話による合否の問い合わせには一切応じない。

12. 入学手続等

合格した者は，次により入学手続を行うこと。なお，詳細については，令和 8 年 1 月下旬頃に別途通知する。

(1)手続期間

令和 8 年 2 月 26 日（木）～令和 8 年 3 月 5 日（木）（土日祝除く）

〔受付時間 9:00～17:00〕

(2)納付金の納入

・入学料・・・・・ 282,000 円

（注）既納の入学料は返還しない。

〔参考〕

① 令和 7 年度授業料（年額）：535,800 円（前期分 267,900 円，後期分 267,900 円）

② 授業料の納入時期は，前期分 4 月，後期分 10 月になる。

③ 在学中に授業料の改定が行われた場合には，改定時から新授業料が適用される。

④ 入学料及び授業料については，免除又は徴収猶予の制度がある。（詳細は，入学手続関係書類に同封する。）

⑤ 合格者のうち，日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は，入学料及び授業料は不要である。

13. 追加募集

推薦入試，一般入試（夏期募集及び冬期募集），外国人留学生入試及び社会人入試において，合格者が博士前期課程総合生産科学専攻全体の募集人員に満たない場合は，追加募集を行うことがある。追加募集実施の有無については長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係へ問い合わせること。

14. 個人情報の取扱

(1)出願書類により取得された個人情報は，入学者選抜業務のために利用する。また，合格者の個人情報は入学手続案内業務のため，入学者の個人情報は，学籍登録業務のために利用する。

(2)入学試験の成績及びその他の個人情報は，入学料免除及び授業料免除等並びに各種奨学金の選考資料並びに教務関係業務に利用する。

(3)出願書類により取得された個人情報及び入学試験により取得された個人情報は，入学者選抜に関する統計調査・研究に利用する。

(4)出願書類により取得された個人情報及び入学試験により取得された個人情報は，「個人情報の保護に関する法律」に規定されている場合を除き，以上の目的以外で利用すること又は第三者に提供することはない。

15. 障がい等のある入学志願者との事前相談

障がい等のある入学志願者で，受験上及び修学上の配慮を必要とする者は，令和 7 年 10 月 22 日（水）までに，下記の内容を記載した申請書（様式は任意）に医師の診断書を添え，長崎大学総合生産科学域事務部学務課大学院係へ相談すること。なお，入学者選抜において事前相談の内容によって受験者が不利益を被ることはない。また，必要な場合は，本研究科において志願者又はその立場を代弁し得る出身大学関係者等との面談等を行うこともある。

また，事前に相談がない場合は配慮が認められないこともある。

○ 申請書の記載内容

(1) 入試の区分，志望コース（分野・系）

(2) 障がいの種類・程度

(3) 受験上の配慮を希望する事項

(4)　修学上の配慮を希望する事項
(5)　出身大学等でとられていた配慮
(6)　日常生活の状態
(7)　志願者の郵便番号・住所・氏名・連絡先電話番号（FAX 番号）

☆本学では，長崎大学障がい学生支援室を設置して，障がい等のある学生及び障がい等のある入学志願者への支援を行っている。

16. 安全保障輸出管理について

本学は，外国人留学生等への教育・研究内容が国際的な平和及び安全の維持を阻害することが無いよう，「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理を行っている。それにより，希望する教育・研究内容の変更を求める場合があるので留意すること。

なお，詳細については各コース（分野・系）に問い合わせること。

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	水産生物資源分野	松下　吉樹	1．水産資源の持続的利用のための漁業技術，採集技術に関する研究	
		清水　健一	1．航海計器の適切な運用に関する研究 2．船内労働衛生環境に関する研究	
		滝川　哲太郎	1．海水や大気の運動，海の流れや水温の変化などの物理現象 2．海洋物理環境と生態系の関係	
		広瀬　美由紀	1．計量魚群探知機を用いた魚類や動物プランクトンの資源量推定に関する研究 2．水中音響機器を用いた海洋生物のモニタリングに関する研究	
		八木　光晴	1．船舶の運用に関する研究 2．海洋ゴミと水産生物に関する研究	
		田中　雄大	1．海洋の熱，塩分，栄養塩等の分布，変動，輸送に関する水産海洋学的研究	
		河邊　玲	1．バイオロギングを用いた高次捕食魚類の回遊行動に関する研究 2．環境変動・洋上風力発電施設の導入に対する海産魚類の行動応答に関する研究 3．魚類の遊泳行動の調節に関する研究	＊
		ﾆｼﾊﾗ・ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ・ﾅｵｷ	1．藻類生態系の代謝に関する研究 2．藻類生態系保全と回復に関する研究	＊
		平坂　勝也	1．水産物由来機能性栄養素に関する研究	＊
		長阪　玲子	1．魚類の代謝制御による養殖に関する研究 2．生物の嗜好性に関する研究 3．魚類の寿命決定因子の解明	＊
		鈴木　利一	1．浮遊生物の生態学的研究 2．海洋の食物連鎖に関する研究	
		天野　雅男	1．海棲哺乳類の生態，系統分類に関する研究	
		阪倉　良孝	1．海産魚の種苗生産に関する研究 2．海産魚の初期生態に関する研究	
		山口　敦子	1．魚類の分類・初期生態・成長・繁殖・食性・行動・分布および回遊に関する研究 2．海洋生態系の構造と機能および海域環境の保全に関わる研究	
		和田　実	1．水圏微生物のモニタリングに関する研究 2．水圏の動植物と微生物の相互作用に関する研究 3．沿岸や流域における人と生態系の関わりから健康を考えるエコヘルス研究	
		竹垣　毅	1．進化生態学に基づく水棲生物（特に魚類）の行動・繁殖生態および生活史戦略に関する研究 2．環境変動に伴う魚類群集構造の変化に関する研究 3．魚類の資源生物学的・保全生態学的研究	
		河端　雄毅	1．魚類の行動・分布・生残を決定する内的・外的要因に関する研究 2．魚類の捕食・逃避時の運動メカニクスに関する研究	
		近藤　能子	1．海洋における金属元素含めた微量栄養物質の循環に関する研究	
		竹内　清治	1．海洋底生動物の個体群・群集動態に関する研究 2．水産資源，特に貝類の保全に関する研究	
		中村　乙水	1．魚類の行動的・生理的環境適応に関する研究 2．魚類の採餌生態に関する研究	＊
		桑野　和可	1．磯焼けの原因に関する研究 2．海藻の成長，成熟に関する研究	
		ｻﾄｲﾄ･ｸﾞﾚﾝ	1．海産付着動物（特に二枚貝類）の付着・変態機構に関する研究 2．汚損生物の付着防止対策研究	
		菅　向志郎	1．養殖魚介類の疾病に関する研究	
		山口　健一	1．水生生物のタンパク質合成系に関する研究 2．海洋起源の機能性高分子物質に関する研究	
		吉田　朝美	1．遺伝子クローニング・翻訳後修飾解析を含めた海洋生物由来機能タンパク質の構造及び生理機能の解明 2．食品科学的観点からの魚類筋肉タンパク質分解機構に関する研究	
		金　禧珍	1．底生生物幼生の行動制御に関する研究 2．環境問題が海産微小生物に及ぼす影響に関する研究	
		小山　喬	1．水生生物を用いた遺伝育種に関する研究 2．水生生物の耐病性育種に関する研究	
		平尾　翔太郎	1．海洋産生理活性物質の全合成研究 2．海洋生物由来の生理活性天然物の単離と構造決定	

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	水産生物資源分野	上野　幹憲	1．海洋生物由来生理活性物質に関する研究 2．海産魚培養細胞に関する研究	
		韓　程燕	1．動物プランクトンの生物機能解明 2．仔魚飼育用餌料生物および環境リスク評価用試験生物としての応用	
		征矢野　清	1．魚類の性成熟に関する生理学的・内分泌学的研究 2．魚類の生殖と環境	＊
		村田　良介	1．海洋温暖化が海産生物に及ぼす影響に関する研究 2．イカ類の生殖生理生態に関する研究	＊
		高谷　智裕	1．微細藻類の毒産生に関する研究 2．魚介毒の同定及び性状解明	
		井上　徹志	1．魚介類の腸内共生微生物の研究 2．微生物の有効利用に関する研究	
		谷山　茂人	1．水産物の食品栄養学的研究	
		濱田　友貴	1．魚介類アレルギーに関する研究 2．魚介類を利用した水産加工食品の開発	
		山田　明徳	1．微生物の遺伝子・ゲノムに関する分子生物学的およびゲノム科学的研究 2．魚介類や食品に関連する微生物の多様性・機能・利用法に関する研究	
		王　曜	1．水産食品の食品科学的研究	
		竹下　哲史	1．海洋生物由来蛋白質の構造と機能に関する研究	

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野	担当教員	研究題目・研究テーマ等	
	木村　正成	高効率有機合成反応の開発と機能性物質の革新的合成	
	作田　絵里	光機能性化合物の創出と応用	
	白川　誠司	デザイン型有機分子触媒を用いた環境調和型有機合成反応の開発	＊
	中谷　久之	高分子の劣化・生分解化	＊
	兵頭　健生	機能性セラミックス材料の設計と応用	
	村上　裕人	機能性ポリウレタンエラストマーおよび易剥離可能な粘着剤の設計・開発	
	森口　勇	ナノ構造制御による蓄電デバイス材料の開発	
	森村　隆夫	熱電エネルギー変換材料の開発と構造解析	
	赤嶺　大志	形状記憶合金，機能性金属材料に関する研究	
	有川　康弘	遷移金属錯体による小分子の活性化	
	上田　太郎	反応界面制御によるガス検知機能の高度化	
	瓜田　幸幾	ナノ空間の特異現象解明	
	海野　英昭	タンパク質の構造機能解析	＊
	大貝　猛	電析法を利用した機能性金属材料の創製	
	小野寺　玄	遷移金属錯体を用いた触媒的有機合成反応の開発	
	鎌田　海	低次元セラミックスの生化学的応用	
	Dao Thi Ngoc Anh	ナノテクノロジー応用における生体高分子の研究開発	
	田原　弘宣	機能性イオン液体の開発	
	Bun Chan	スーパーコンピューター上での量子力学的手法によるデータ基盤化学	
	福田　勉	生理活性物質の合成手法の開発	＊
	山田　博俊	固体界面における電気化学的現象の解明	
	尾本　賢一郎	錯体化学を活用した高次構造体の構築	
	中越　修	ナノ複合体の合成と触媒への応用	
	能登原　展穂	ナノ構造電極材料の開発	
	林　幹大	水素結合型分子結晶の創製と物理的・化学的性質の探索	
	本九町　卓	廃棄プラスチックの資源循環	＊
	山本　将貴	金属材料における相変態の機構解明	

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等
共生システム科学コース	環境レジリエンス分野（工学系）	板山　朋聡	生態工学技術とアクアインフォマティクスの発展途上国への応用
		大嶺　聖	地盤の高度利用技術と地盤環境工学に関する研究
		奥松　俊博	橋梁構造物など社会資本維持管理に対応した計測技術の開発
		源城　かほり	建物の環境性能とバイオフィリックデザインに関する研究
		蒋　宇静	地盤防災と岩盤構造物の維持管理に関する研究
		中村　聖三	鋼構造物の設計および維持管理手法の合理化・高度化
		安武　敦子	住環境のデザインおよびマネジメント手法に関する研究
		石橋　知也	景観デザインおよび地域計画にかかわる実践的研究
		佐々木　謙二	コンクリート構造物の高品質化・生産性向上に向けた材料・施工性能評価手法の高度化に関する研究
		杉本　知史	地盤構造物に関わる各種モニタリングと分析・力学的評価手法の開発
		鈴木　誠二	生態系を含めた水域の物質循環特性の解明および水環境管理保全手法の開発
		瀬戸　心太	人工衛星を用いた降水観測，防災への応用
		西川　貴文	社会基盤構造物のセンシング・モニタリング技術の高度化
		山口　浩平	高品質なインフラ構造物の維持修繕技術の開発とその社会実装に向けた診断技術の開発に関する研究
		吉川　沙耶花	気候変動や土地利用変化による水文・環境への影響評価
		田中　亘	氾濫原における洪水攪乱と陸水生態系の関係解明
	環境レジリエンス分野（環境系）	遠藤　愛子	水・エネルギー・食料ネクサス，学際・超学際アプローチ，沿岸海洋管理，鯨肉のフードシステム
		大田　真彦	林業や自然環境保全に関する政策・政治・ガバナンス，森林−人間関係，資源利用，熱帯林保全，コミュニティ型林業，世界農業遺産，地域循環共生圏，持続可能な開発のための教育（ESD）
		片山　健介	都市・地域計画　ＥＵの空間政策　広域ガバナンス論　集客型市街地のまちづくり
		菊池　英弘	環境政策決定過程の分析
		黒田　暁	環境認識論　合意形成論　地域資源管理論　都市農業と郊外社会論　震災復興活動
		五島　聖子	都市緑地のデザイン　海外における日本庭園の歴史と役割　日本庭園の鑑賞による心理効果
		関　陽子	環境思想研究　身体哲学　環境倫理学（道徳哲学）　野生生物と人間
		昔　宣希	カーボンプライシング，炭素市場，企業の環境・炭素経営
		竹下　貴之	エネルギーのベストミックスに関するモデル分析　クリーンエネルギー技術の可能性評価
		友澤　悠季	民衆のなかの環境思想系譜の探求（公害をめぐる広義の社会運動の通時的研究） 戦後史・科学技術史・地域自治論・環境正義論などと接点
		服部　充	生物間相互作用が生物多様性に与える影響に関する研究
		濱崎　宏則	【水資源・水環境の政策およびガバナンスの分析】 水管理に関する政策，多様なステークホルダーによる意思決定・合意形成やプラットフォームのあり方，水管理における住民参加，持続可能な水利用のためのガバナンスの探求
		深見　聡	持続可能な観光　エコツーリズム　世界遺産　ジオパーク　観光公害(オーバーツーリズム)ダークツーリズム　観光教育　　環境教育　社会科教育　離島研究
		本庄　萌	ＥＵとアメリカにおける動物福祉法の比較研究
		馬　騰	再生可能エネルギー導入促進、電力市場、排出権取引
		吉田　護	地域減災計画，災害リスクガバナンス，異常気象への適応策
		和達　容子	ＥＵ環境ガバナンスの政治学的研究
		渡邊　貴史	緑地・ランドスケープの構造と機能　緑地・ランドスケープの保全・再生政策
		朝倉　宏	廃棄物処理処分技術開発　埋立地安定化促進　海ごみ・マイクロプラスチック

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	環境レジリエンス分野（環境系）	池盛　文数	大気エアロゾルに含まれる有機物の観測と生成・起源解析への適用	
		馬越　孝道	九州の構造性地震および火山性地震の解析 温泉資源の保護と活用に関する調査	
		岡田　二郎	無脊椎動物における物理化学的環境の知覚と適応的行動発現の神経機構・行動に対する環境化学物質の影響	
		利部　慎	水質・同位体・年代推定手法を用いた水循環機構の評価・解明	
		河本　和明	エアロゾル・雲・降水の相互作用　人工衛星データによる雲観測	
		久保　隆	多種多様な環境汚染物質の遺伝子毒性評価と簡易・総括指標の開発に関する研究	
		小山　光彦	廃棄物バイオマスを有価物に資源化する微生物プロセスの高効率化とメカニズム解明に関する研究	
		白川　誠司	デザイン型有機分子触媒を用いた環境調和型有機合成反応の開発	＊
		高尾　雄二	環境中の微量有害有機化合物の分析と動態解析	
		高巣　裕之	海洋生態系における元素循環の駆動因としての微生物の役割の解明	
		長江　真樹	環境水中医薬品の魚類への繁殖・行動影響に関する研究 越境大気汚染物質のミジンコ毒性に関する研究	
		中川　啓	地下環境中における環境負荷物質の動態解析　地下水・土壌汚染の修復に関する研究	
		中山　智喜	大気中の微量気体成分や微小粒子（PM2.5等）の動態・特性の室内実験および観測研究	
		仲山　英樹	環境汚染の要因となる化学物質の浄化・再資源化に資する生物機能の解明とその応用	
		西山　雅也	土壌圏における生物化学反応と微生物生態の解析・制御・利用	
		松重　一輝	河川におけるウナギ属魚類の生態研究とうなぎに対する市民の認識に関する研究	
		山口　典之	鳥類の移動生態学・行動生態学	
		山口　真弘	大気汚染や気温上昇が樹木や農作物に及ぼす影響に関する研究	
		大庭　伸也	昆虫を対象とした行動生態学的研究　希少な水生昆虫に関する保全生態学的研究 島嶼の生物多様性に関する研究	

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	スマートシティデザイン分野	奥松　俊博	橋梁構造物など社会資本維持管理に対応した計測技術の開発	＊
		源城　かほり	建物の環境性能とバイオフィリックデザインに関する研究	＊
		中原　浩之	建築構造物の耐震設計と耐震補強	＊
		安武　敦子	住環境のデザインおよびマネジメント手法に関する研究	＊
		石橋　知也	景観デザインおよび地域計画にかかわる実践的研究	＊
		佐々木　謙二	コンクリート構造物の高品質化・生産性向上に向けた材料・施工性能評価手法の高度化に関する研究	＊
		永井　弘人	航空宇宙機および大型構造物の複合領域設計解析に関する研究	＊
		西川　貴文	社会基盤構造物のセンシング・モニタリング技術の高度化	＊
		藤田　謙一	持続可能型浮体式洋上構造物の構造システムに関する研究	
		山口　浩平	高品質なインフラ構造物の維持修繕技術の開発とその社会実装に向けた診断技術の開発に関する研究	＊
		陳　逸鴻	建築構造体の性能検討と新しい接合工法の開発	＊
		原田　晃	システム特性の抽出手法及び特性の工学的利用に関する研究	＊

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	電気・機械システム分野（電気電子系）	阿部　貴志	電気機器と電動機制御システムに関する研究	＊
		石塚　洋一	パワー電子回路およびアナログ集積回路に関する研究	
		榎波　康文	光通信用超高速光デバイスや量子センサ型細胞内観測の研究	
		大島　多美子	プラズマプロセスを用いた機能性薄膜の創製に関する研究	
		田中　俊幸	電磁波を利用した非侵襲（非破壊）診断法に関する研究	＊
		中野　正基	電子機器用磁性材料の開発	
		武藤　浩二	信号処理及び通信用アナログ電子回路の構成ならびに複素信号処理の理論と応用	
		浜崎　真一	電力系統連系のための電力変換器システムの制御と応用	
		福山　隆雄	プラズマ中の非線形現象に関する物理研究	
		藤島　友之	簡易避雷方式・接地抵抗測定およびオゾン生成とその応用に関する研究	＊
		藤本　孝文	高機能アンテナに関する研究	＊
		古里　友宏	高電圧パルスパワーおよび放電プラズマ応用に関する研究	
		松岡　悟志	有機・光エレクトロニクスデバイスに関する研究	
		丸田　英徳	ディジタル信号処理にもとづく電源回路に関する研究	
		森山　敏文	電磁波順/逆散乱問題とマイクロ波リモートセンシングの研究	＊
		柳井　武志	磁性膜開発と応用	
		横井　裕一	回転機設計と非線形動力学応用に関する研究	＊
		大友　佳嗣	数値解析を用いた電気機器の形状最適設計に関する研究	
		Guan Chai Eu	ワイヤレス通信システムにおけるマイクロ波デバイス、アンテナ、反射板の研究開発	
		大道　哲二	回転機制御に関する研究	
		山下　昂洋	成膜技術と磁性材料開発	

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等	
共生システム科学コース	電気・機械システム分野（機械系）	内堀　洋	システムズエンジニアリングに基づく海洋無人システムの研究	
		近藤　智恵子	環境負荷の小さい高性能ヒートポンプおよび冷却デバイスの開発	
		才本　明秀	固体における破壊現象の予測と工学的応用	
		坂口　大作	ターボ機械の多目的最適化に関する研究	＊
		桃木　悟	冷媒の管内沸騰・蒸発熱伝達	
		矢澤　孝哲	高機能材料の加工・計測	
		山口　朝彦	流体の熱物性値測定と熱物性予測式の開発	
		扇谷　保彦	プラスチック歯車の運転性能向上に関する研究	
		奥村　哲也	固体表面近傍における流体挙動に関する研究	＊
		小山　敦弘	各種工業用材料の疲労特性評価，レーザー誘起超音波顕微システムの開発	
		下本　陽一	様々な制御対象に対する制御システム設計法に関する研究	
		田中　良幸	生体運動制御メカニズムに基づく人間機械系に関する研究	
		大坪　樹	精密生産技術に関する研究	
		Garcia Novo Patxi	潮流エネルギーファームのレイアウトの最適化に関する研究	＊
		北村　拓也	乱流の数理と大規模数値計算	
		佐々木　壮一	機械学習に基づく流体機械のエネルギー変換に関する研究	＊
		本村　文孝	半導体ウェハの個片化技術に関する研究	
		盛永　明啓	海洋ロボティクスに関する研究	
		永井　弘人	航空宇宙機および大型構造物の複合領域設計解析に関する研究	＊
		原田　晃	システム特性の抽出手法及び特性の工学的利用に関する研究	＊

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース・分野		担当教員	研究題目・研究テーマ等
共生システム科学コース	情報データ科学分野	喜安　千弥	3次元計測，医用画像処理，リモートセンシング画像分類などのパターン情報処理に関する研究
		柴田　裕一郎	リコンフィギャラブルコンピューティング，量子誤り訂正など，次世代のコンピュータアーキテクチャに関する研究
		高田　英明	3D映像音響を中心とした高臨場感メディアやコミュニケーションメディアに関する研究
		尾崎　友哉	仮想と現実を融合させる空間コンピューティングに関する研究
		植木　優夫	統計学，生物統計学の手法およびアルゴリズム開発。具体的には，医療統計，医療データ解析の方法論に関する研究
		金谷　一朗	世界遺産の計測・メディアアートの制作などを通した，人間と人工物の理想的な関係を求める研究
		持田　恵一	網羅的なバイオデータから有用知見を探索・同定することを目的とした情報学的手法の開発に関する研究
		宮本　道子	ITガバナンス，マーケティング・サイエンス，スポーツデータ・サイエンス，経営・社会科学分野での実証研究
		酒井　智弥	パターン認識と機械学習のための数理モデリングと最適化。医用画像，生体信号，物流データ等への応用
		原澤　隆一	計算代数，暗号理論
		藤村　誠	仮想現実感技術などを用いた医療支援システムに関する研究開発
		瀬戸崎　典夫	バーチャルリアリティ（VR）の技術を活用した効果的な学習環境の開発と評価に関する研究
		一藤　裕	人流の推定や行動のモデル化に関する研究。観光客の行動分析や人流制御方法の検討，観光政策支援など
		荒井　研一	暗号プロトコルの安全性評価に関する研究。具体的にはフォーマルメソッドを用いた暗号プロトコルの安全性検証など
		伊藤　宗平	形式手法によるソフトウェア検証，プロセスマイニング，理論計算機科学
		宮島　洋文	機械学習に関する研究。具体的には，データの安全性を考慮した機械学習のアルゴリズムに関する研究など
		梅津　佑太	数理統計・機械学習の基礎理論やアルゴリズムの開発およびその応用
		神山　剛	スマートシティ実現に向けたモバイル機器を活用した都市の情報センシングと応用，スマートモビリティに関する研究
		松本　拡高	バイオインフォマティクスに関する研究。具体的には疾患の遺伝子発現解析やそのための理論・アルゴリズムの開発など
		堤　公孝	音声信号処理、音響信号処理、空間音響
		今井　哲郎	ネットワーク科学に関する研究，およびAI/IoTを用いた産業応用に関する研究
		薗田　光太郎	マルチメディア情報データハイディング・エンリッチメント，聴覚，電気音響に関する研究
		MUTHU SUBASH KAVITHA	ディープニューラルネットワークを用いた高次元データからの情報検索や，画像処理，ヘルスケアインテリジェンス，医用画像解析など
		眞邉　泰斗	リコンフィギャラブルコンピューティング，FPGA，リアルタイム画像処理等に関する研究
		姜 佳明	企業イノベーション，統計学，ミクロ経済学

総合生産科学研究科博士前期課程　教員一覧

欄外に「＊」のある教員は，他のコース・分野の教員一覧にも記載があるため，他のコース・分野のページも確認し，志願するコース・分野・系を選択すること。

コース	担当教員	研究題目・研究テーマ等	
海洋未来科学コース	阿部　貴志	電気機器と電動機制御システムに関する研究	＊
	石塚　洋一	パワー電子回路およびアナログ集積回路に関する研究	＊
	内堀　洋	システムズエンジニアリングに基づく海洋無人システムの研究	＊
	坂口　大作	ターボ機械の多目的最適化に関する研究	＊
	田中　俊幸	電磁波を利用した非侵襲（非破壊）診断法に関する研究	＊
	中谷　久之	高分子の劣化・生分解化	＊
	中原　浩之	建築系連結浮体構造物の開発	＊
	中村　聖三	鋼構造物の設計および維持管理手法の合理化・高度化	＊
	海野　英昭	タンパク質の構造機能解析	＊
	奥村　哲也	固体表面近傍における流体挙動に関する研究	＊
	永井　弘人	海洋構造物の複合領域設計解析に関する研究	＊
	福田　勉	生理活性物質の合成手法の開発	＊
	藤島　友之	洋上に設置された電気電子機器の簡易避雷方式などに関する研究	＊
	藤本　孝文	高機能アンテナに関する研究	＊
	森山　敏文	電磁波順/逆散乱問題とマイクロ波リモートセンシングの研究	＊
	横井　裕一	回転機設計，非線形動力学応用，波力発電に関する研究	＊
	Garcia Novo Patxi	潮流エネルギーファームのレイアウトの最適化に関する研究	＊
	佐々木　壮一	機械学習に基づく再生可能エネルギー機械の開発	＊
	陳　逸鴻	海洋建築の構造設計と数値解析の開発に関する研究	＊
	本九町　卓	廃棄プラスチックの資源循環	＊
	征矢野　清	１．魚類の性成熟に関する生理学的・内分泌学的研究 ２．魚類の生殖と環境	＊
	河邊　玲	１．バイオロギングを用いた高次捕食魚類の回遊行動に関する研究 ２．環境変動・洋上風力発電施設の導入に対する海産魚類の行動応答に関する研究 ３．魚類の遊泳行動の調節に関する研究	＊
	ﾆｼﾊﾗ・ｸﾞﾚｺﾞﾘｰ・ﾅｵｷ	１．藻類生態系の代謝に関する研究 ２．藻類生態系保全と回復に関する研究	＊
	平坂　勝也	１．水産物由来機能性栄養素に関する研究	＊
	長阪　玲子	１．魚類の代謝制御による養殖に関する研究 ２．生物の嗜好性に関する研究 ３．魚類の寿命決定因子の解明	＊
	中村　乙水	１．魚類の行動的・生理的環境適応に関する研究 ２．魚類の採餌生態に関する研究	＊
	村田　良介	１．海洋温暖化が海産生物に及ぼす影響に関する研究 ２．イカ類の生殖生理生態に関する研究	＊
	BALU ALAGAR Venmathi Maran	魚類寄生虫の分類学と系統学；養殖における魚類寄生虫防除のための天然物の応用；クラゲ由来コラーゲンの特性解析とその生物多様性と生態学	＊

令和８年度　長崎大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程
入　学　願　書　〔 一般入試（冬期募集）〕

受験番号	※

長　崎　大　学　長　　殿

貴大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻に入学したいので，
所定の書類及び検定料を添え出願します。

年　　月　　日

ふりがな
氏　　名

年　　月　　日生　　性別：（男　・　女）

志望コース等 ＊志望するコース・分野・系に〇を付けること。 ＊水産生物資源分野及び海洋未来科学コース（水産系）志願者は，受験する専門科目の試験科目２科目を記入すること。 （教員一覧を参照）		共生システム科学コース　水産生物資源分野 〔専門２科目(　　)・(　　)〕
		共生システム科学コース　環境レジリエンス分野（工学系）
		海洋未来科学コース（水産系） 〔専門２科目(　　)・(　　)〕
指導を希望する教員		
出願資格 （該当番号を〇で囲むこと）		(1)・(2)・(3)・(4)・(5)・(6)・(7)・(8)・(9)・(10)・(11)
現住所		〒 E-mail：　　TEL（　　）　　－
出身大学・学部		大学　　学部 高専　　専攻科 卒業・卒業見込・退学予定（飛び入学）年月　　年　　月

記入上の注意

１．※欄は記入しないこと。

２．氏名は，戸籍又は在留カードのとおり記入すること。

履　　歴　　事　　項				
	学　　校　　名	入学・卒業年月	休学の有無 休学期間	資　　格 （学　士）
学歴		入学　　年　　月 卒業　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	
		入学　　年　　月 卒業　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	
		入学　　年　　月 卒業　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	
		入学　　年　　月 卒業　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	
		入学　　年　　月 　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	
		入学　　年　　月 　　年　　月	有 ・ 無 年　ヶ月	

	勤　務　先（職名）	勤　務　期　間	
職歴		年	年　月 ～　年　月
		年	年　月 ～　年　月
		年	年　月 ～　年　月

	事　　項	年　　月
賞罰		

上記のとおり相違ありません。

年　　月　　日

氏　　名（自署）

記入上の注意

1．学歴は高等学校から記入すること。ただし，外国人留学生は小学校入学から記入すること。
2．卒業見込みの者については、「卒業」の後に「見込」と記入すること。
3．履歴事項欄の職歴，賞罰のないものは，「なし」と記入すること。
4．入学後，履歴中に虚偽の記載事項が発見された場合には，入学を取り消すことがある。

令和８年度　長崎大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻入学試験

写　真　票　（一般入試）

受 験 番 号	※
氏　　名	
志 望 コ ー ス	コース
志望分野・系	分野・　　系

写　真
（縦４㎝×横３㎝）

上半身無帽正面向きで３ヶ月以内に撮影したもの
写真の裏に氏名を記入すること

---------- 切りはなさないこと ----------

令和８年度　長崎大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻入学試験

受　験　票　（一般入試）

受 験 番 号	※
氏　　名	
志 望 コ ー ス	コース
志望分野・系	分野・　　系
専門科目	(　　)(　　)

専門科目は水産生物資源分野及び海洋未来科学コース(水産系)志願者のみ記入すること。

写　真
（縦４㎝×横３㎝）

上半身無帽正面向きで３ヶ月以内に撮影したもの
写真の裏に氏名を記入すること

---------- 切りはなさないこと ----------

令和８年度　長崎大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻入学試験

検定料納付証明書貼付票　（一般入試）

住　　所	
氏　　名	
志 望 コ ー ス	コース
志望分野・系	分野・　　系
検定料納付証明書貼付欄	

---------- 切りはなさないこと ----------

受験上の注意事項

(1) 試験前日の午後，工学部 1 号館ピロティー及び水産学部正面玄関に試験当日の集合場所を掲示するので，試験室（集合場所）を確認すること。（ただし，入室はできない。）

(2) 受験者は，本研究科から交付した受験票を試験当日必ず携帯すること。

(3) 試験当日，所定の試験室（集合場所）は第一科目の試験開始時刻 40 分前に解錠する。志願者は，第一科目の試験時刻 30 分前までに入室すること。

(4) 筆記試験の各試験開始後 30 分以内の遅刻者は受験を認めるが，試験時間の延長はしない。面接試験の集合時刻に遅刻した者は受験を認めない。ペーパーインタビューの試験開始時刻に遅刻した者は受験を認めない。

(5) 携帯電話等は，試験室に入る前に電源を切っておくこと。

(6) 気象状況などを考慮して十分にゆとりをもった日程で試験に臨むこと。試験当日に台風等の自然災害が発生した場合は，試験日を延期することがある。

(7) 原則として追試験は実施しない。また，不測の事態が生じた場合，再試験を実施することがある。

---------- 切りはなさないこと ----------

一般入試用

受験番号	※

志　望　理　由　書

令和　　年　　月　　日

長 崎 大 学 長　　殿

志望コース
志望分野(系)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ふりがな
氏　　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

昭和・平成　　年　　月　　日生

私は，貴大学大学院総合生産科学研究科（博士前期課程）に入学を希望しますので，ここに志望理由書を提出します。

（注）志望理由に加えて，あなたがこれまで行ってきた研究について触れるとともに，これから取り組みたい研究について書いてください。（字数の制限はないが，記入枠内におさめること。）
なお，志望にあたっては，指導予定教員と前もって連絡を取ってください。

受　験　番　号
※

出 願 資 格 審 査 申 請 書

年　　月　　日

長崎大学長　殿

ふりがな
志願者氏名

今般，貴大学大学院総合生産科学研究科博士前期課程総合生産科学専攻（　　コース　　分野）に入学を志願するにあたり，出願資格審査を受けたく所定の書類を添えて申請します。

研　究　歴　証　明　書

氏　　名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

生年月日 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

上記の者は，下記のとおり研究歴を有することを証明する。

記

在籍した機関，部局名及び身分	
研　究　期　間	年　月　日から　年　月　日まで（　年　ヶ月）
研究題目及び研究内容等	別紙のとおり

年　月　日

機関名

職名・氏名

※　この証明書には，最終学校修了後の研究歴について記入すること。

※　この証明書は，在籍した機関の長が証明すること。

研究歴証明書　別紙

研　究　内　容　要　旨

氏　　名 _____

研究題目 _____

「２．出願資格(11)」出願者（出願資格審査用）

受　験　番　号
※

推　　薦　　書

年　　月　　日

長崎大学長　　殿

（所属・職名）

推薦者

氏　　名　　㊞

志願者名		志望コース等	コース 分野 （　　系）
推薦理由（志願者の学力，適応性，大学院受験が適当であると判断される理由等）			

注：この推薦書は，志願者の所属する大学の長，学部長，学科長，コース長又はこれに準ずる教員が記入のうえ，**厳封**してください。